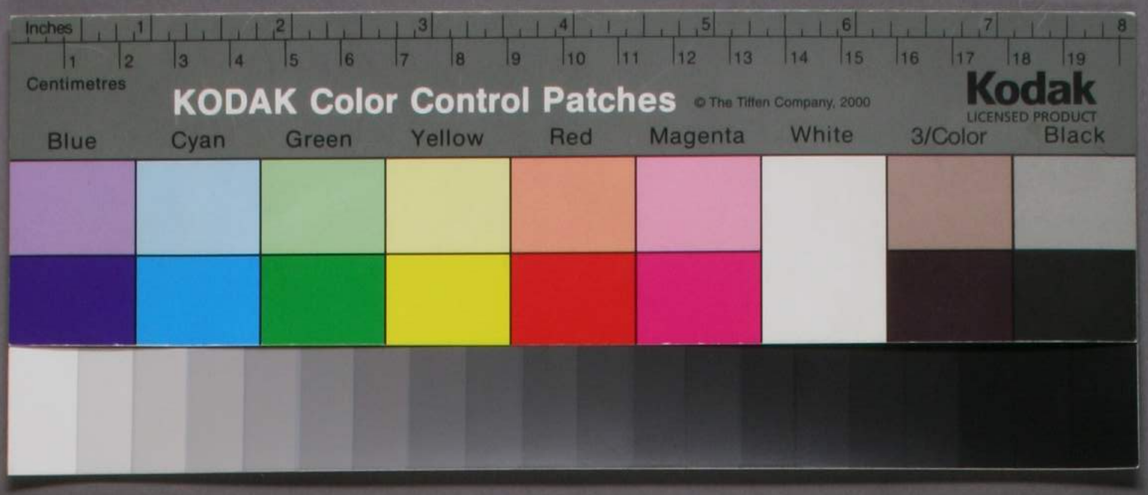
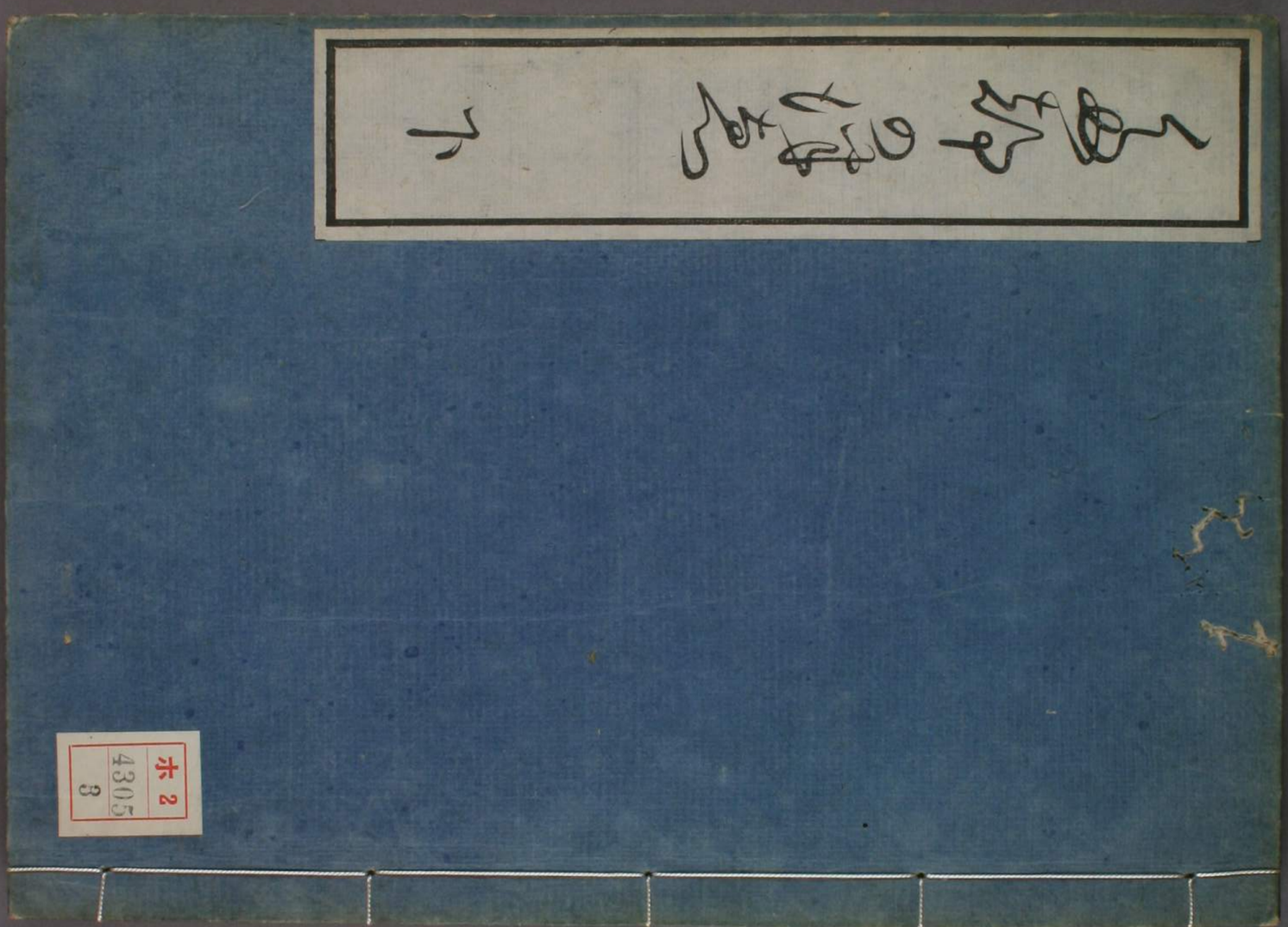

Inches
Centimetres
KODAK Color Control Patches
© The Tiffen Company, 2000
Kodak
LICENSED PRODUCT
Blue
Cyan
Green
Yellow
Red
Magenta
White
3/Color
Black



ホ 2
4305
3

Tajima
JAPAN

手束杖下

や初　ま六　け九　ふ十　こ十二　え十六　て十七

あ十九　き二十八　き三十四　ゆ三十六　め三十八　み四十　し四十四

ゑ五十　ひ五十二　も五十六　せ五十八　す五十九

故
先光遺風氏
大正十三年十月
三十日
先光華氏
寄贈

ホ
4305
3

太郎加途衛 下

手や

や乃約

二ゑ

㋚ やほ古夜本 八百 ㋛ やへ古夜弊 八重 ㋜

やを紀八五を訓む ㋝ やう有やう又写やうなくて様のものゝ物波出てゝやうし

三ゑ

㋐ やいばを焼双こいさかうんむ ㋑ やはら物波書こゝろやし業をやわらぐるこゝろ ㋒ やはし万夜波之 和 ㋓ やはび和夜波須箭受弦處 箸 ㋔ やはら父業を訓むわざくらの業 ㋕ やとこ やとこ やとこ やとこ

物

傭を訓りて續後に
博士不雇頭とみえ
㋤ やをら 漸 弱を訓り今そろく 兼 しらずもそしといへり

㋕ やうち 丈八欈之 築て八挨欈をかくすといふとい?なる八非之 すべて多くは八いへる八湯のうて八尋
殿八尋戸又八子代にてれも
湯のことなる?を?るくし ㋵ やよひ 古今 弥生 ?よ
手くふく三月は稲種をおろしへ
彷れをかくしもいふなるべし ㋡ やそぢ 万 八十を 訓り

㋡ やつを 万 八岑を 解と峯の?する 訓り 據らそしとらえ ◯ やつめ
和也騎女 駿河 矢集 ㋶ やらひ やらそえ やらふ 古夜良比 やらへるとも
逐 ㋰ やもを 和夜乎字 無妻之 鰥 ◯ やもめ 和夜女
兼 無夫之 寡婦 ㋒ やうの 八日 椋てやうのの日を挙て注 八符日と也を延て也字云く
又飯も古今集よなのねの日やうの日をみて八符をはむむなるひ
まくらくといひりかを日とあるふを挿ふて濡れもとらなるを非之

ちを採つゝ前のくよのりらひまし文?るかうふなぞうて八日ともより
をくいおもちはすのろそれとなれとそれぞれは悉くそるなぞき
も古今集を初後撰集拾遺集なとの詞書にもあらくしまして
作もあらぬ八日とふを残そいふそなし椋のを弥よりいふる八にし
もちろえれ万て八百日行文古こ景行を里に陀伊に大鏡光
人の日本武尊之續紀なれるて用途波許を能用は途波此袁
か袁とものも名つら助を弥よりして八ちらにいふれ九夜十日と歌へ
つふまでもしれ文あらく弥をつらむるましらつれとゆゑけせぬと
しひさく淡むるなどあるつすやうちるなしかられ八
たちの方ふえよのりらくしひさそまよふきそちふぞすのれ

涼 楊 器まく 川入をそとそす ㋔ やも 紀 八方を訓り 八面の義之 ◯ やう ㋠ や
まひ 和夜万比 病 ㋖ やぎふ 和也支布 大和 楊生
㋯ やじり 和也志利 鏃 家作にやしろといふも屋尻の義なれと假字あやまし ◯
やしを 象 椰子を 注に 椰子盃以毒投盃中則酒沸 訓り 出之 今人塗盃中甚矣椰子用とえ

○やしほ 拾万ニ八塩を河乃
草ニ 白薇 ㊂ やえみ 和夜恵美
ㇾ云
① やいのま 大祓 焼ニ臻ニて いきをつく ○ やいぐし 和夜伊
久、奥宮具ニ 弗緘 ○ やいけた 紀野伊徒姑 奴やけこと しるハ
ニ 蛇の目のいもし 略りてニ ○ やいばた 和也以八ニ 曠 枡ニ火田ニ今畑字ハ火田を今作るものと見
八 ㊅ やはらこ 俗也波良加 和 ○ やはぐだ 万葉 膚を 河り
㊆ やほおひ 源 八百會の 葉ニ ㊇ やをろづゑ 風俗哥 源 夜半止女 度
女の 葉ニ ㊈ やかごをれ 矢形尾 矢ハ源 鷹ニりの 葉ニ ㊉ やたのびと 矢迷を 延ニて

かひの約
ニて ㊉ やなぐひ 和也奈久比 箙 ㊋ やぐ
神乎ニ
也字ニ々々 漸 やゝを 俊ニ死ニを
うれを俊の
物ニて ○ やうなき 源 無益の
青俊ニ ㊌ やくそ
え 台紀中尾寿の 俗ニ
八桑枝ニ立葉ニ見 ㊍ やまだづ 古夜麻 造木者ニ
○ やまびこ 古 山祖を河乃 多見ニ
紀 山神ニ ○ やまびめ 山津持ニ
拾 樵夫 山賊の 葉ニ ○ やまびめく 万山畏 衆住ニの
葉ニ ○
やまぢさ 万山治佐 解ニを葉彼蒿ニ似
和夜麻恵美 たれハ安ニんとニり ○ やまのみ
草ニて 黄精 ○ やまあゐ 万山藍を
河乃 ○
やまたへ 和也末多倍 和泉 山直 ㊎ やけひめ和

也今比止
国訪 益必 ㋐ やあけせ盛矢闘 和ニ闘草ヲ久佐阿波世
と見 ㋑ やしなふ やしなひ やしなへ 字也ニ 東布 養
○ やしはた和夜之波太 曾孫之義 玄孫 ㋒ やしらひ
強指万徘徊又称豫ヲ
訓ス

又云

㋓ やいでぐさ 延喜式ヲ訓ス焼業草 ㋔ やはら
ぐち和夜波良 久佐 黄蓍 ㋕ やほこのゆく 拾 万ニ八百
訓ス ○ やほよろづ 中ニ祖八百萬ヲ 日行ヲ
訓ス ○ やほた
でを 万 八稜蓼子ヲ ○ やほよろし 古夜保乎余
枕 訓ス 枕志

㋖ やへむぐら 古今 万ニ八重六倉
万 八重葎 枕 弥重葎ノ義 ○ やへだくみ
㋗ やまぢかひ和山乃加比 山間ク 浅 ○ やまいもゐ
夜万加
以毛 ○ やまおぶき 字山河不支 草ニ 石英
○ やまぶき 字山保々支 東花 ○ やまぶし
和也末不々支 棟業 和ニ款冬ニ注ス枝日ノ下ニ小ク咲ク三體ヲ
万ニ款冬ヲ草ニ作ル本草款冬華紫ニシテ雨ニ逢ヘハ萎ム雁ノ来ニモ華ニ
ト云ヘリ今ノ蕗ノ華ニ似タリ棟業ハ万ニ山吹又山振ト見エテ
枝モ葉モ花モ蕗ニ似タリ然レトモ蕗ハ冬ノ末ニ花ヲ開キ春ニ
葉ヲ生ス棟業ハ春ノ末ニ花ヲ開キ夏ニ葉ヲ生ス是ヲ以テ
蕗ニ非ルヲ知ルヘシ ○ やまのいも 紀 山頂ヲ訓ス
山末ノ義ニ

六云

㋐ やそよろづを 續八十伴雄 ○ やそうぢびと 紀八十氏人 ㋑ やそのをとめ ㋒ やへのかけぢ 和夜乃佳乃 古今 屋遊 ㋓ やへのしま 和夜末比々良ま 巴戟天 ㋔ やえのもり 支 万葉ニ 八岑ニてふとまる事れいなのやへなるをたゞそこはかとなくいふ

七云

㋐ やくものたつ 支 雲

㋑ やまとたまーひ 原日本紀ニ楊梅事ニとる ㋒ やまとをぐな 支 癡ハもとこれをいふ ㋓ やせさらぼへ

八云

○ やまがろしのこのせ 古今・山卸風

まの初

二云

㋐ まい 和麻伊 夏年ニ 烏羊 ㋑ まへ 古麻弊

前 ㋑ まづ 万麻ヲ先 ㋒ まひ 古麻肥幣 ○ まひ まへ 和麻比 辛

三云

㋐ まはす ま廻を何サ紫ノ用趣の義ニ云ヘ ㋑ まへら 紀禪を何サ前裳の義ニ云ヘ ㋒ まゐふ まひ 史纏 ○ まどひ まそそん まふ 古麻比 惑 ○ まもる 和未分、麻刀為 圓居 ○ まほろば 万麻表 曰、白 常申をのゝ事ゆ ㋓ まがひま 須 ㋔ まかぢ 万ヲ楫 ㋕ まのへ まそそん まふ 万麻我比 紛 ○ まかぢ 万ヲ楫 ヲ ㋖ まひ 古麻肥

㋗ まよひ まそそん まふ 績遂流遍 遂 ○ まよふ 活ニ云ヘ 和万与布 ○ まこのわ 和万与和貝ニ 石ヲ螺 ㋘ まそほ 万ヲ表ヲ ㋙ まなほ 万ヲ表ヲ ㋚ ま 貪欲を麻治和ト例ハ治ハ云ヲ志の約ト云ヘ ㋛ まなし 貪 枕ニ紀ニ ㋜ まそほ 万ヲ表ヲ ㋝ まうで 従 万ヲ詣 ○ まうで まふし 万ヲ麻ヲ勢 曰、白 ○ ま 天 ㋞ まゐる 祢未分 万為利 ㋟ まゐり 和万ヲ多 陸奥 望ヲ多 ㋠ まふし 和未布ヲ漁ノ具ニ 翳 ㋡ まあひ 後撰 座を延ヲ さくの約せニ ㋢ まさへ 糸 ㋣ まふし 和未布ヲ漁ノ具ニ 翳 ㋤ まあひ 後撰 座を延ヲ さくの約せニ ㋥ まさへ 字万安比 顔

㊀ まさざえ 紀賊を例す用 ○ まさき 全
蒲の義と
蒔絵の ㊁ まゆふ 支 古木綿の ㊂ まぐし
義と 義と
ふ 万 万自由 文

比云

㊃ まぼはひ 万 延喜 匍匐を 惑を 延 ㊄ まもち
例り
まぼほ 蒼 待を ㊅ まをさむ 万 麻 辛 真 解く 古ふ
安
蒋くと
くす ㊆ まのなふ まかなそん まろなひ 字 万 加
まろなく 古布
擬、賄 ○ まの門 る 業 罷出の
略伝く
ふ 儀式帳 古 麻 木綿
義く ㊇ まゐゆ
㊈ まゐろふ まゐろそん まゐろひ
まゐろく

万麻加
呂倍 隨順 ○ まゐはふ 古今 纏を例り又
縁もおなし
○ まだこのひ 万 向使 向使ハ假字にて
古使の義く
伊 待 向の ○ まゐこのひ 盛 待 盲人給官を
義く 古八月十
皆をいふ 古 世 ㊉ まなのひ 万 麻奈 眼 間の ○
乃倍波と 加比 義く
まなぐし 字 万古 志利 眺 ○ まなかいる 和 万古
古爲
眼皮 ○ まなざち 万 愛子地 古 砂 路を
まなをつ
まないく 和 未古 ㊋ まろうぐ 今 希 人を
吹た 廻 古 倭く
いろす ㊌ まろうそく 名 盲 月の ㊍ まぐはし 万
倭く
同細 月 細まて 香
細なくのまく ○ まぐはひ 古 麻 曇 波
比
嫁

(フ) まふくず 支 山伏をいふ 万 いつゝゐるおこし 未考 (ヘ) まさき

たゝ 硬を訓ゝ 裁縫をいふ (ユ) まゆびみ 和 万由須良

(メ) まめ汁 和未女 豆木 大豆粥 注勿与二歳以上十歳以下小児食之免難而死云々 画眉墨ゝ 黛

(ミ) まゝじおわ 延 麻白作里 青 (ム) まゝなひ 万 まなひん

まゝなふ 紀 厭を訓ゝ 咒禁師云 まなくるも

呂久 瞳 (メ) まゝじろぐ 字鏡 万 志

いふ行れも始りと注ゝ (モ) まゝしはる 紀 交又参を まゝしらひ又 訓ゝ まゝしへなめ

(モ) まゝらひ 古 麻も 守を疋 良比 いつゝ 麻 周 邏を 支 支

(ヤ) まゝなひ 万 麻比 幣をゝりなふ辞ゝ おのがなひるゝのまゝし

(ユ) まゝらを 万

ゑ ゑ

(ロ) まろがなへ 和未詳 万 和未詳 麻呂 奈倍 (ト) まゐまゐし

和未カ万字之 奈倍 参 (チ) まゐこむ 和 麻多以止古 三往

(ヌ) まくらゞ 枕 (リ) まくらぜく 万 枕 枕着 (ヲ) まくら

らゆふ 支 枕結て草枕結のあて 羈旅ゝいふ事

万 枕 ゝ葛延 (ワ) まくゞらぜく 紀 麿古 棄 考ゝ古云 遥羅 葛ゝ

(カ) まゝごらはし 源 紛を結し いつゝ (ヨ) まひあぐ

さ 和未詳 久佐 苔参

六 ゑ

㊄ まひのがしら 和万比乃加之良 雲冠 ㊅ まん

らなけを 万叓支を 河内

七云

㊆ ままをれすひいぶく 叓 垣穂苅 又玉敷 穂積苅 絲の義く ㊇ まんほ乃 まきほの

すく哭 垣穂苅 又玉敷 穂積苅 真文翁の玉の穂苅の苅とおぼしけれどいふべし

十云

○ まきはしろ〳〵のきぬ 和万加波之乃宇 倩乃假奴 縫掖

けの部

二云

㊆ けふ古祁布 今日 ㊄ けひ古祁比 筒飯

三云

㊇ けはし 字分波志 峭、嶮 ○ けはひ 源氏 けはひ

辞と栞又 拂ひし ㊈ けぢめ 伊結目又差別を訓ず東磨分目ともかく栞異路目ともおれ

もえいぶし ㊉ けぶる 和分加留 結髪ともり 梳 ○ けづる 万

気頸流 削 ㊆ けふり 字分史利 煙 ㊊ けさ

う 伊古ゝゝ繋想ゝ ㊋ けしう 茶 性數を言 伊没ゝいふ

十七云

㊈ けぢこの実 茶 茶ろきの条く
穢を延 たらをくり
いるり

㊉ けぐらし 深 元跡の
やう 盛 考 養の 条く
条く

㊋ けびるし 茶 撿非違使ろ
今訓例く

㊌ けがぐらひ 紅濁穢を
訓ろ

㊍ けぶるし 深

㊎ けびらひ 体深 茶に擬ふるもと
いるりもえ

五云

㊏ けがらはし 紅濁穢を
訓ろ

㊐ け杉さるし 深
元壓の
条く

二云

㊀ ふい 風即をいふり
いし条ち

〇 ふい 茶不意の
青く

㊁ ふい風即をいふり
いし条ち

〇 ふい 茶不意の
青く

㊂ ふい 風即をいふり
いし条ち

〇 ふい 茶不意の
青く

㊃ ふい 風即をいふり
いし条ち

〇 ふい 茶不意の
青く

㊄ ふい 風即をいふり
いし条ち

〇 ふい 茶不意の
青く

㊅ ふい 風即をいふり
いし条ち

〇 ふい 茶不意の
青く

㊆ ふい 風即をいふり
いし条ち

〇 ふい 茶不意の
青く

㊇ ふい 風即をいふり
いし条ち

〇 ふい 茶不意の
青く

㊈ ふい 風即をいふり
いし条ち

〇 ふい 茶不意の
青く

㊉ ふい 風即をいふり
いし条ち

〇 ふい 茶不意の
青く

㊋ ふい 風即をいふり
いし条ち

〇 ふい 茶不意の
青く

㊌ ふい 風即をいふり
いし条ち

〇 ふい 茶不意の
青く

㊍ ふい 風即をいふり
いし条ち

〇 ふい 茶不意の
青く

㊎ ふい 風即をいふり
いし条ち

〇 ふい 茶不意の
青く

㊏ ふい 風即をいふり
いし条ち

〇 ふい 茶不意の
青く

㊐ ふい 風即をいふり
いし条ち

〇 ふい 茶不意の
青く

ふるはん ふるふ ふるくるしも 和布須比 竹器之 篩 ○ ふるふ 治上之 旧布 ほし 瑠

部 毓 ㋦ ふこゐ 和布多為 長门 二處 ㋡ ふりく

紀恨又忿を訓り ㋣ ふまへ 支踊を迩 いゑり ㋫ ふくま

和布之木 周菜之 蕗 ○ ふゝし 和不布志 能也 鳳至 ㋚

ふさひ ふさもん ふさふ ふさくるしも 古布佐 波受之 祥

匕云

㋷ ふりそえ 古今 振映の 大 義之 ㋹ ふるまひ 万振麻 比

振舞又紀之進止を訓り ㋕ ふのりみ 和布加支之 草之 石蓴

㋡ ふりくむ 紀憤を訓り ㋶ ふらばへ 万布良 婆閉

解之編を延ゑしより ふりくへし 振迩の義なるへし ㋷ ふくろふ 和不久呂不 鳥之 梟

○ ふくたい 今 毦毿を ふくたみと訓り 今綿をもて作れるをふくさむと云 これは今衣の ふくらみなるへし

㋫ ふくめる 万布敷賣流 ほゝゑむとも 含 ㋢ ふでりこの 職人 とも云

今 筆柄 今筆の軸といへり ㋖ ふくがは 和布 加波 鞴

㋛ ふしづけ 和不之都介 捕魚具之 罧

五云

㋠ ふぢころも 和不知古路毛 喪服之 纕 ○ ふぢばかま

和布知波加万 草之 蘭 ㋤ ふなよそひ 万布奈与曾比 とも云 艤

○ ふれやをひ 和布奈夜 毛非 舊舡 ○ ふなかど

ら多 黄昏を
汌す

鷺 ㊀ ふさいぐ 和布保々天 久佐 ㊄ ぶ

ぐ多 字ハ不ハ糸
志留 蹲

六ゑ

㊅ ふぼ〳〵でぐさ 和布保々天 久佐 ㊆ ふくみ

川はふそう 支仁法俗と云鳥之紀國
する野山に棲とふ

ふくもり 後拾 卵鳥の床
をとす

おの初

二ゑ

① おい 紀吟を汌す云々俗ごびゆるとふ
ふるもとふ

㊁ おる 支藏也集ゝ鷹を古ゐるゆゑ云々鷹の
紐ゐの玉をおゝ緒をそり本居とゝえ

㊂ おえ 紀古曳 ㊃ お

字古衣多利 肥
肉多ゝ

㊄ おぐし 古根許士之 許士而 堀

㊅ おひ 古本ん古ふ おへるゝも 延ゑ比 ㊆ おひ

古古婁 戀 ㊇ おひ 和古比 足病ゝ 纏

字古比 鯉 ㊈ おひ 字古比 鵜

三云

(ハ) おはし 字已波志 強 (ホ) おほも 万許保米 氷

○ おほり 俗已保利 郡 ○ おほね 和名保祢 蓴菜ニ 溫糕 (ト) おとぢ 和名乎止古度比 頭大牛ニ 特牛 (カ) おがひ 紀養蚕ヲ飼ヒ 箏柱 ○ おとひ 和名乎止比 紀比 (ヨ) おとひ 紀盧豫 今夜 (タ) おたふる 字旬ヲ已ヲ不トル見 應、答 (ツ) おびの 和名乎乃 鰭 角中骨ニ 鮨 ○ おびけ 後撰小着ノ義ニ ○ おびを 和名乎乎 魚ニ 鮫魚 ○ おびそ 万朱積ヒ史ヲ始ヒヨリ氣潮ニモトヨリヨロシヲ以テ名ヲ負ヒ不ルヲ以テ名ヲ負セヨリ

○ おでむ 漢俗名平記ニ迎法ニ見 (ラ) おらへ 英 凝姫ノ略ト云ヘリ

(ウ) おろし 家鼈ノ条ニ ○ おろけ 古公家ノ条ニ ○ おろし 家蒼忠ノ条ニ ○ おろし 家講師ノ条ニ

おろじ 漢 為困ヲ苦ヒ役ニ従ヒ労リ (ノ) おろえ 和名乃江 武蔵 狗 江 (ク) おろは 和名乎呂波 猟猴桃 (ヤ) おまひ 多ク樹ノ枝ヲ刺ス杙ヲ柵ト云フ 多樹ノ枝ヲ刺ス杙ヲ柵ト云フ

欽 (マ) おごそ 和名之里 家材ニ (ケ) おひぢ 和名比千 泥 (フ) おひ 檜 ○ おごそ 刀鋸朝瓦ヲ ととのふ方ニ鋸鋤ヲ用ヒ作ル器ヲ (エ) おひ 和名比 木末ニ 梢 ずゑ

比云

① おいふし 万許伊布志 屡卧 ○ おいしろ 和名抄以之呂伊セ 溝代 ㊐ おはいひ 和名抄八伊比 強飯 ㊍ おほろぎ 和名抄呂波出ス 蜻蜊 ○ おほへる 字已係辺留 磊 ○

おほし 万古保志 枳 憩教 ㊎ おもぐひ 万事向 言向 ○ おもぐ 古今 言傳テ たくの約テモ ○ おものを 万辞備 言ヲモ ○

おもわり 万許等利 理 ○ おもわさ 後ヲ仰ル言

業の義モ ㊈ おもぐ 万許知痛 ㊐ 痛 ㊏ おもぐの 古悦 声ヲ出テ わざをスル ㊐ おもぐぃ 拾紅梅の おもをハいろてふうハをくそ成 芭蕉をんなをハふるまひ 古万布 江 篇 ○ おまうぐ 儛 ㊑ おもぶえ 和古万布江 高麗人 ㊒ おもへ 詞ノ重ネ禁中ヲモ ○ おもろえ 後拾心得の義モ ㊓ おえぢ 字古江ヲ紀 嗅 ㊔ おぎふれ 和古之字止 夫之反 兄公 ○ おしらふ 字古志良布 領 紀ニ慰ヲ訓ル ㊕ おひろみ 万許代乃反 ○ おしよふ 古虐後の義モ

又云

① おいまろび 万 及側又展 物を汚り ㊍ おほめかし 清 おほめく〳〵 向し 榮と 壊る〳〵 おなしもの ㊎ 言 万 枕 久

嘱 ㊐ おわぜくり 榮字と已未至 久利 歎 ㊏ おくく

そいた 後悔の 未と ㊑ おまぜくり 和古未至 久里 獨樂

㊒ おうれいし 後拾 劫石そ圍碁の 手そうけくり ㊓ おくろそ

え 意映 持そ延くる 八理りやえくし 映ハそえ〳〵 家のくそくて 終るこし ○ おくろぜ

ア 万情 初未 解そ 安くる 古そをいやそくる ㊔ おこしそわ

ら 和古之波 和良 髭帶 ㊕ おひ 称のふ 紀元頴久そ 廢事を汚り

㊖ おもまぜり 万 枕 古母理を 乃 芳そ 濃水そ ○ おも

もかぜら 条 髪 髯を汚り

云云

㊗ おろもぜ〳〵み 和古呂毛を 々美 帽幗 ㊘ おをる

く 古許表呂 凝ゆ 又凝そ 々々々 ㊙ おむらがをり 和古 世

食か 倩利 物部 ㊚ おくくくくくくでん 西後漆殿 禁中版式 汚例そ

㊛ おろてがしは 万古乃豆かそ波 未と 児手柏 ㊜ おく

ろもとび 紀有意を汚り 榮そ心和そて らひの狗り込え ○ おくろまぜひ

和古々波未止比 病く 矢意 ㊝ おしそそくらひ 久 幹を汚り 和そ轂を

車乃古之波之久不
古を掃のまるてし ㊤ おふのまほひま 声の仮額
をらつ

七ゑ

○ おふしはじのみ 和古不之波之
かち 辛夷

えの初 江得
それをの仮字なり

二ゑ

㋑ えい 纓 青く屈折れて
体と燕尾とふんもと ㋒ えふ 茱萸 緑の青く

㋓ えや 江弥 ㋔ えも 和衣加 近江 ゑも 着
十干をゑり

㋕ えり 正に領 倭訓名物六
衣くびとえとをり ○ えり 撰 用之ゑて
おせり

㋖ えぐ 和衣比
平ぐえ 蚊

○ えぐ 古迩阮
木之 枝、條

えぐ 和衣久
かぐ 英太 ㋗ えそ 蝦夷 材と
愛澁

詩の物流
なりんとをり ㋘ えな 紀 胞衣を
洲り ㋙ えの 和迩乃
薩摩

頴娃 ㋚ えび 紀 長きひげの
ある子の義成て
編平魚 鰕 ○ えひ 和衣比
似鰹而青長鼻帯黒 鱣 ○

えび 和衣比
用海老 鰕 ○ えひ 和衣比 裏衣香

三ゑ

㋛ えはう 告方と告を
えの仮字と用ゆ
辞と ㋜ えをそぢ 字衣手
比 阿伯 ㋝ えぐそぢ紀

役を　役發そきを河そとの水に非く祭發の義と
河り　そいへの約えなるこそ

衣を利　屋具く　棟　㊉　えなみ　和江名矣　清濁　榎列　㋁　え

らひ　万擇又擇を河り　えろ
らひの約りえ佐よるそ

盛　幼稚の　ノ　えろき　宇衣乃末　柃　㋂　えそに　㋃　えうち

和衣久ホ　伊勢　兄國　㋄　えやみ　和衣疫矣　二日一發病く　瘧　○　え

やく　和衣疫矣　疫　㋅　えふり　和衣布利　清濁　朮

㋆　えみし　紀伊濱治　えひしる　蝦夷　㋇　えびら　和衣比良

養蠶　畜く　蠶簿　○　えびら　保　箭室をうち上におせる蠶落
平　ふりふの葉を蠶の落に可ヱ愛

牧の義やとうり常飯のこよを可ヱ
逆頬飯ハ小カカツ菊飯なるしを可ヱ

ほうりのうえもし　㋈　えそのき　支　衣物の義く

㋉　えのはら　和衣賀波良　小兒腰痛く　瘧　㋊　えなそれ　支得不

在そあれかうり　㋋　えそむし　宇衣米虫　悔　㋌　えび

ひれ　和衣比須祢　ひれあやめもち　比楡

昆布

㋍　えやくぐさ　和衣疫矣久佐　まうのなるも　躄蟾　㋎　えびかばら　和衣比

ろれすぐ　禁令義解　驛路鈴　㋏　えびめ　和衣比須米　ひろえそも

かうぞ良 紫葛 ○ えびくぐさ 和名衣比須久佐 字 衣比須久佐 夕山さけう
藥 ○ えびくぐさ 和名衣比須久佐 生明日うえ 決明 ○ え
びすぐさ 字衣比須久佐 萩
六ゟ

(ヒ) えびのぼらのみ 和名衣比加良乃美 蒲萄 ○ えび
くぐすり 和名衣比須久須里 芍藥
めみそさう

てのね

二ゟ

(ウ) でう 条條の
きそ (井)

(ヘ) てへ 古今 とらへの 拾 約束 (中)

でゐ 東 今 お居の 家そ (フ) てふ 古今 浚撰 ちふ又てふよりよし

○ てふ 訶 家そ 蝶の 家そ 字みな加波比良古 和名風蝶を和名係を天布とよぶ又てふとも入ふのこと ○

でふ多帖の 家そ

三ゟ

(ヘ) てへり 禁 者を訓すること又てへれとも
とのつ乃の約語を

字豆字 乃 釿 手斧の 家そ (ヤ) てを乃

そうりお とらつり (ラ) てらふ 紀 街を 手 (ウ) てうび
らふ訓り

禁 手水を 業 使こと (ツ) てぶく 家そお 手扇の ことと

(ウ) てうぶく 家 調度の 天字 止風俗哥 ○

てうし 名 銚子の
正 てうし

巴云

㋫ てびかう 万五 手自又可良 手自又
氏 見 身自いふ
久利 手作 ㊉ てならひ 添 手習 ㋬ 朝参の
なの之ことあり
てらはく 字天良波 街 ㋭ てうさん 名 朝参の
須 てうし
○ てうじ 物流出ることおほくこれゆ
用のもの

又云

㋑ ていたらく 名 為躰を
見 刈り ㋣ てらばこ 和 天
竟 啄木鳥

あ乃部

二云

㋑ あい 栄 愛のこと ㋺ あは 万 阿波 淡 粟 ○ あ
は 和 阿八 國 安房
阿波紙 ○ あはち 和 安波 弾 阿弾 ㋩ あへ 和 こ
たへ 万 安倍 敢 ㋥ あぢ
字 阿知 鯵 ㋭ あを 古 阿表 名 青 ○ あを
魚 古 味 ○ あぢ 万 安遅 名 鶴を
鳥 刈り ○ なぢ

清 栞て蓑のおとひゝり称代の
まゝ事栞より栞ゝる名ゝえ

桑 ㋺ 阿わ 古阿和 保ゝゑゝ 沫、泡 ㋭ あえ 紀阿敷 肖 今あやうゝと
阿比 造化ゝゑ 栞撃 ○ 阿ひ 和ゝ川含を加波 安比ゝゑ 逢、あへゝる ㋬ 阿ひ 和
會 ○ 阿ひ おほん あふ 古阿比 あへゝる
かゝえ 相 合 ○ あひ 和ゝ相可 を阿布

三ゑ

① あいゝ 和阿伊古 お羽 秋田 ○ あいた 和安伊多 英仏
英多 ㋩ あはれ 紀阿波礼 古阿波礼 可怜、怜悧 ○

あはゞ 假安波世 合 ○ あはら 和阿波良 おはゝやゝ 亭
○ あはら 字阿波良 武宝ゝ 樹 ○ あはひ 栞同の述 ゝゑゝ 正
○ あはめ 保おはゝえゝまゝゝゝ 令法の義ゝ
交を 注ゝ力 ○ あはき 保法ゝゑゝ 令法衰の略 ○ あはき
び 和阿波比 万 貝ゝ 鰒 ○ あはふ 和阿波 布 栗田 ○ あ
はぢ 和阿波知 國ゝ 法路 ㋥ あへく 万安倍 加 敢 ○
あへぬ 万安倍 年 不堪 ○ あへぎ 和阿倍 波 喘息
○ あへる 栞 あはれゝゝはれの約へゝ ゝゑけゝゑゝてゝまの義ゝ ㋦ あちふ 和阿 知布
かあ麿 安也 ㋧ あるじ 風俗哥 阿流ゝ 主 ㋨ あを

おく 和阿辛 度 礒磯 ○ あをな 和阿辛奈 菜を 蔓
菁 ○ あを 万 公 白馬を阿辛 紀 万と訓す ○ あをみ 和
阿辛美 河 碧海 ㋐ あわ 万淡緒 ㋑ あわび 字阿和 皇 惶急、周
章 ○ あわを 万伊 ○ あかふ 和安加布 信濃 赤生 ㋒ あたひ 紀直を訓
費直とも ○ あたへ 價 菜物等を賖賜 ○
あだ あだしあだしくるもの 紀阿黨 播奴 與 ○ あだへ
淚 菜ひてあをあぶけ 狹 ㋓ あそふ 和阿曾布 飛驒 遊 ○ あだの 延阿奴
㋔ あげく 盛 預 物當附と ○ あぢ

加 紀のまゝ草菜 ○ あぢ
あぢくさ ○ あぢき
あぢき 古阿乎依 木ゝ 梓 ○ あぢ 万阿乎麻 吾妻 ○ あぢき 和
安乎依 長門 奉狹 ○ あぢし 和阿知之 信濃 安曇 ㋓ あなひ 菜あをひ乃
略注 ㋔ あらふ あらはす 万あ良 布 洗 ○
あらは 紀阿羅 幡 顯露 ㋕ あむ 万安武佐 弐
洗あらふ 汲あらふ ㋖ あら 史鸚鵡の事 和名鸚鵡を阿良之と
訓す

見 ㊀ おまひ 古阿摩比 如 ○ おまえ 衆
窓得の義 ㊁ おふぎ 和阿布 扇 ○ おふぎ 和阿布 仮
和阿布古 杣 ○ おふぎ 万安布 仰 ○ お
ふま 和阿布利 馬義 蹴泥 ○ おふだ 後撰 速朝
○ おふち 和阿布知 棟 ○ おふひ 和阿布比
草 ○ 蓑 ○ おふみ 和阿布美 伯蒼 會見 ○
おふみ 和阿布美 國 近江 ㊂ おおえ 和阿古
江注鶏雉脛有岐 距 ㊃ おえめ 万安要奴 解く本の安由流 魅ふるを忘
と見 ㊄ おさい 万朝寐 朝寢 ○ おさぢ

古今万葉 千 ○ おさぢ 和阿散知 息 鮸
㊁ おゆひ 万阿由比 脚帯 ○ おゆち おいたちる
万年魚市 尾張 和阿伊知 愛紀 ㊂ おしを 和阿之乎 鷹 異
繋手 ○ おじろ 万阿自 捕鳥 網代 ○ おじ
の字河月 かも 賀 ○ おしま 和阿之萬 草 蓋草
㊂ おしま 和阿之萬 洗濯 平安 ㊃ おひだ 万阿比 太 間 ○ おひげ 和阿比介 陸奥 會津 ㊄ おひだ
和安須波 越前 足羽

(八)あはなふ 万安波 不逢そてなふの 安布 伯ぬそとふり ○あはがら
和阿波我良 臭之 梳齒魚 ○あはらや 丈 和に亭を一云 阿波良也とみえ
○あはれむ 左 憐を訓り 憐愍の こと阿怜とありり ○あはれさ
丈 未考 志字 (へ)あへもの 字 阿反 毛乃 齏 (ト)あやら
らふ 紀 珧を訓り 今あかしと 云ものなり ○あともひ 万阿騰 母比
御軍をとりしとえ解、誘のこゝろてあともるの語活え侶て再をもやふとらふ とも言ゆとし下略 集に陰侶の義とみえ 梅がいつれもいうくたは御軍
をおもめくあま八香ひ又もひの約とえ みハめこまてりふまふとどりし (チ)あぢはひ 字に鹹を 阿知かは
支阿比 波比とみえ 味 ○あぢむら 万安遅牟良 うむもし侶て阿 治かもといふり
むつハ群の 義之 ○あぢさゐ 字安治 佐為 紫陽花 和に安 佐

為と 見え ○あぢまめ 和阿知末女 籬上豆之 藊豆 ○あ
ぢまさ 多 松柳子を 訓り (リ)ありはだの 多 姪を訓り 注玉篇家
とと 見え (ル)あるひは 或 集 枝名に 一謂者とみえ (サ)あそひ
え 和阿手 比衣 竹刀 ふ寿ての時勝の 緒を結くこと用ゆ ○あをやぎ
万阿表 也疑 青柳 ○あをのり 和阿手乃里 海草之 陟
敉厘 ○あをちば 和阿手左波 臭之 鯖 ○あを
むし 和阿手 曳之 螟蛉 ○あをうみ 多 滄溟 を訓り
○あをうり 和阿手 宇利 青瓜 (ワ)あわし
ほ 和阿和之保 食塩く 白鹽 渋塩の義そて白くうるさ ようもとより渋きをかくるく ○

下

あわゆき 古 和 阿和 由伎 沫雪 ㊎ あからへ 續 阿加 良倍

明 ○ あがなふ あがなはん あがなひ あがなへ あがなふる 紀 贖を訓り 栞に 相と辨つ 称の義なるべし

○ あがまふ 崇を延 いふなり ○ あかづく 垢を訓り

○ あかぢら 和阿加知良 暮れるの 防巳 ㊈ あだなふ 紀

奸賊を訓り なるべし 辞を 罪を流く なさふとぞ付し ㋡ あそばひ 万 遊を延 ぶる

㋡ あづまや 和阿豆 万屋 四阿 ○ あづかふ 字阿豆

かぶ 傷熟く 瞗 ○ あづのひ あづのはん あづのふ あづのへ あづのふる 葉宛 遣

の義く ○ あづなひ 紀 阿豆 那比 合葬 ○ あづし

れ 紀 羸弱を訓り 栞に 熱乾の義なるべし ㊉ あなひ 和 阿奈々比 造化なるべし

麻柱 ○ あななひ 續 穴太比 匠に助くる

○ あなづる あなどる 紀 を訓り 字に 阿奈止留 侮 ㋶ あらたへ 万

荒拷 諸に布の古 縫くとみえ ○ あらそひ あらそはん あらそふ あらそへ あらそふる

古 阿良蘇 波受 争 ○ あらがふ 字 阿良 我布 違 ○

あらはる 万 阿良 波之 顯 ○ あらすき 今荒小田の 義く

○ あらなふ 万 阿良 南數 不在を延たり なふの約ぬ ㋰ あむ

じろ 和阿 作路 邊籐 ○ あむぢち 今あむぢち 射

和阿 射染 ㋒ あうしち 和阿宇之知 鼠蔵なるべし

鸚寶 ㊓ あゐしゑ 和阿為之流 澂

㊍ あやびり 文撰の
和志 字 阿夜 ○ あやふ 文撰の
和志 ㊀ あまさへ 多 副詞のごとく ○ あア
なのふ 多 和名抄に引く 物れるごとし ○ あまびら 和阿 未
至良 甘葛と 千歳藥 ㊆ あふさわ 万相佐 會稽の
和 ごとし
㊇ あえをの 菜 肴をのそあやまり ものとらふ ㊈ あてがふ
あてうえ あてえ 盛 完養の 和 ㊉ あさごほ 万 揆字 桔梗
あてえ あてえ 和 ○ あさぢふ 古今 淺茅生
阿佐加保と訓す ○ あさひな
揆 ふふきを使とあるは誤なり
明りなるをいふ ○ あさひる
和阿比奈 ○ あさひる 万 阿佐比天 駕

秋秀 ○ あさふづ 和阿佐布豆 織衣 朝津
㊌ あさなふ あさなふ あさなふ 字 阿 茶布 高
○ あさごひ 和阿支志比 清育と 勝 ○ あぎみ
ひ 古阿義美比 紀と 喰 喝又傾字を訓す 魚のあごこうら
そぎうのくちもとあるよやうなるものをいふ 頤 ひくくと同やうのかたちをなす情と面を振
相模 ㊋ あゆごひ 和阿由加波 ㊎ あゐみいた 和阿美以多 刑 ㊏ 後興
㊐ あしらび あしらび あしらひ みそのおくしらひ ○ あし
しらひ 和阿之良比 蘆之初生と 苓 ○ あしぐ 後撰 奥俊おくと芦の
やうにもとをそ
ろへ置ことを
いふ ○ あしぶり 万 受 利 冬搗 俗無字 置所と
なり

○あしなへ 字鏡 足病也 跛 ○あしたを 和阿之

多字 展系 ○あしはさ 史 万 おのこの河をれなるす腹ふちとくてろこのあし河きしとあしなく

たちれ 古字 らし 古考 ㊁ あひおい 桐老 ○あひおひ

桐生 横て立の桐老をたらくおもてゐるを謡くしらへるハかくくなし ○あひむた

和阿比古夫 姉妹ノ夫之 娅 ○あひよめ 和阿比与米 兄弟ノ妻之

妯娌 ○あひくち 和阿比久知 口張齒見之 齗齶

五云

㊀ あいはうじ 和阿伊夏々之 正之秋つくしとえ 山榴 ㊇ あはせ

あめま 和之給衣を阿波世乃波沼とえ ○あはれかひ 史 憐養の義也

㊅ あへなくま 和阿閉夏之利 切肉合擣之 膾 ○あへしら

ふ 源 傑之饗応の義らふの約るくとえ あしらふはし常令訳の字を用ゆ ㊈ あぢさはふ

万 味沢相 考之味鴨乃多くさわくとえ ○あぢきなく 竟宴哥 阿知支

枕 奈久 無道 古名伊勢物語文抄 義之無味也とえ ㊉ あわこがよひ 万 安里我欲

比 人の往来を蟻の道にたとへしく ㊌ あをまよし 万 青丹吉 古語

枕 の楢とつけしなるへし 枕のぶいろむのとくく考とえ ○あをみはら 万 青角髪 考の説いかな

れハ分 とらん ○あをくもれ 万 青雲乃 枕 ○あを沈

河ら 史 古葛之 ㋻ あわたし 大平 騒く義を為の 深立くらへしく

㋕ あこのえむけ 和阿加恵宇姿 情怜小而赤之 赤卒 ㋡ あ河

さゆみ 万 安房作由 枕 矢 梓弓 ㊉ あなよそや 紀 河 那 而奥夜 妍哉 西ノ古事紀ニよれバあなよやしとゝかれバ日本紀のえの字勿論ノ古事紀のしの字又勿論ノ西洋ノ日本紀よりハ古ノ字紀ノ字ノ方ガ古ノ字ニ近シ

あぢさゐ ㋑ あらかじめ 万 豫を訓ス 葉ノ新姑の事ノ条ニ ○ あ

らさわり 多 畜を訓ス 荒卿 割の事ならや ㋫ あやひこさま 後梅垣の事ノ条ニ ○ あやみこざ 今 後薗笠 なるべし ㋬ あま

ぢみ 万 雨乞具 海底神ノ雨を主る神なれバ云ふ ○ あまはゝふ 万 天 枕 傳 ○ あ万をぶね 万 海士小舟 ○ あ万ぎらひ 万 天霧 解ク霧ノ縹ノ如キ物ガ多クノ雲ノ如ク天ニ棚引ク事ヲ云ふ ○ あ万わらし 多 雨を 河ヲ 和 阿米加波良之 ○ あまがるる 和 阿米加波流 蛙黽 ㋭ あぶらいひ 和 阿布良以比 麻油飯ノ条ニ 油飯 ○ あぶみだわ 和 阿布美須良 馬具ノ条ニ 鞍韉肉 ○ あふがさ 多 蒲葵を 河ヲ ㋮ あさぢくよ 万 朝月夜 ○ あさがれひ 源 ㋯ あさざわらふ 多 咲を訓ス 咲ノ条ニ 朝餉 餉ハ食ノ二字ニ作ル ○ あさじおあ ㋰ あしこなへ 和 阿之古奈倍 ○ あしろびや 万 阿自良比 人 網代人 ○ あ

ごは 万 和ニ河万乃加ハ 銀河 河ヲ ○ あ万わらし 多 雨を 河ヲ ○ あまがるる 和 阿米加波流 蛙黽 ㋭ あぶらいひ 和 阿布良以比 麻油飯ノ条ニ 油飯 ○ あぶみだわ 和 阿布美須良 馬具ノ条ニ 鞍韉肉 ○ あふがさ 多 蒲葵を 河ヲ ㋮ あさぢくよ 万 朝月夜 ○ あさがれひ 源 ㋯ あさざわらふ 多 咲を訓ス 咲ノ条ニ 朝餉 餉ハ食ノ二字ニ作ル ○ あさじおあ ㋰ あしこなへ 和 阿之古奈倍 ○ あしろびや 万 阿自良比 人 網代人 ○ あ

しなは 和阿之乃奈波 注懸門
戸以樂山之之乃 葦索 ○ あし

ぢの 後撰 芦 畏く ○ あしまたひ 字尽 万至比 出く 蜱 ○ あ

しなゐ 和阿之奈乃 草く 亭歷子

六云

(六) あへたちばな 和安倍多知波奈 似柚小者く 橙 (ト) にのとそうぐ

す 後撰 菜ニ紛なるゝしとも見 (サ) おをみなのげま 文まゆ美 まゆ眉

る六月の 畏く ○ おをふしがさ 紀 蓑 紫 雜を 河内 (カ) あ

かざはひ 和阿加佐乃波比 澁く 藜 灰 (タ) にのなのげら

七云

はし 紀倭を伊り 延ともく (ラ) あげはちらふ 紀倫を河内

○ あけびのはら 和阿介比加波良 葛おく 通草 (ワ) あ

ふさまるち 支 八や御物こゝろ 加久礼ふものこゝと

し 東押領使を 河内 ○ あふまやう

尾 (サ) あされぬな 万 朝暮を (ヲ) にのしさや

まひ 和阿之佐 夜万比 癘 ○ あしはらがく 和葦原 蟹

甲虫く 蟷螂 (ヒ) あひたけびき 紀云食者を河内

う汁く何れそ今 相伴といふのおく 相宴人まて宴を

㊇ あはろうるしき 保 和阿波乃宇留之祢 梁采 ㊈ あこぢ
乃ろしき 保 赤地綿 ㊉ あまなけたるき古今
海土の繩たゝりへ
そりよりたるき
○ あまをはぐゝめ 古天尾羽張又
伊都之尾羽
張 神叙を
もる いろは ○ あまくち祢びみ 和阿未久多
祢須美
小嵐へ 巌嵐 ○ あまなけるさばら 紀天吉葛を河ら
鮹くるゝ又
葛をふる
いろは

さゝれ初

二云

㊀ さい 和佐以 雙六具さ
きゝるも万佐敞 采 ○ さい 正 犀 和こ青西
奴角八犀の
こゝか角とゝる ㊁ さは 万佐波 多 ○ さは 和た八
澤 ㊂ さへきふ 万佐倍 副 ふくなと
ひさうのかよひこ 障 万ニ佐波利はりの約
いふさゝ ○ さへ
㊃ さを 古佐袁 竿、
檣 ㊄ さゝ 菜像のを
利草本
たゝくゝ ㊅ さゐ 古佐韋 注ニ山曲
さゆるゝ ㊆ さえ 万古敞
寒こ 汜 ○ さえ 千
清月のみなそこいつり蒼こ朗を
さやのこ河ものの昭俗こ ○ さえ 采 もの毛を
河のうゝ
くこい
ろゝ

㊇ 三云

㋑ さいで 栄 万佐波 乃ち

なるしるしさて顕昭のかくはの栄と世俗の幣もくれいろくのさまざまにして仰ぐ

うはふろこんどの御すがたはふさ中略足なを物をふるひ切麻をあるむる鈴のはやしてい

乃至榊にしめ今も弥の幣引裂の布のたぐひ ○ さいう 栄 古万佐波 ㋺ さは

里 万佐波 利 障 ○ けるなし ○ さはら 多鯵を 万佐波 ○ さはふ 清作法のまゝ

○ さはひ 和佐波比 駿河 澤食 ○ さはら 和佐波良 筑前

早良 ○ さはさ 和佐波佐 佐波 雑 ㋩ さへぐ 万佐幣久 喧譁 ○ さへ 栄 和佐倍支 安藝 佐伯 ㋥ ち

とわ 万 里廻 ㋬ さわく 万佐和久 騒 ㋭ さの

え 古佐迦延 栄 ○ さのひ 紀坂合 境 ○ さ

のひ 古佐閇佐閇 へる 遥 ㋮ さそふ 古佐奈 誘 ㋯ さ川を 万 支

さげ 万佐気 授 ㋰ さなへ 後拾 苗を 東 信と云 早苗 ㋱ さらひ 和佐良比 櫂 ㋲ さゝ

詞草紙の 栄 ○ さゝし 栄 曹子の ○ さゝじ 栄 精進の

○ さゝこの 源 唱歌の ○ さゝじ 掃除の

○ さうア 和佐宇万下徳 相馬 ㊀ さえぐ 万古枝

小枝 枝えの二えこおせう ㊁ さぐいな 獨春鳥を訓ち紀に鷦鷯鳥と古に雀を佐邪波宇と鷽を古々波と見えいをかよふなり ○ さぐうえ 和名衣見く 榮螺子 ㊂ さう 源細流と称呼ふるこゝろにさゝらく〳〵みづとはしうくなり ㊃ さひぢ 和佐波魚く 鯽 ㊄ さびえ 和佐須衣盃なく 桮 ○ さび さ古佐波受 假 假廐

比云

㊀ さいばち 神武紀 一曲の名ともえ一流の事枝ともいふ ○ さいなむ 菜字の讃を古支奈牟とよめるハ誤なるべしとハ一ひろ

和佐以多天射藝なく 戲射 ○ さいもち 正く彈丸 禁て彈丸を訓るハ誤りなく 黍笋と訓捕の義ともいふ ○ さいぐち 和佐以久佐加賀 ㊁ さいばち 和佐伊乃未武藏 堺 玉 ○ さいもち 和散伊加遅 二面なく 柊 榛

嘯 五月蠅なく ○ さはやく 源湖月物こゝろ卑愈と見早やくの義なり ○ さはやか 和こゝろ良を佐波夜古と見 ○ さはやかの 源爽を訓ち早やかのでやうハ誘く

○ さはらひ 万障 比 和佐波夜分菜なく 黄菜 ㊀ さへぎる 多遮を訓ち物こゝろを障ぬこと見 ㊁ さまたぐ 和

㊂ さちはふ 幸を訓ちさきはふこゝろなし ㊃ さまぼく 和

佐笛保々 猴嗾 ㊤ さをぶね 万 小船 ちはや さハ發語の
古梅 姫 まちを冒る神 小松姫の名 ㊦ さをひゑ
まて躍の名 ㊦ さわぐ 又合ふ ㊦ さをどる 史 さハ發語
菜駮の猶 ㊧ ちのげ 和佐加為支 酒器 盃、坏 ㊦
ちかいさ 菊遊息の名 走り寄ひ ㊦ さらぼひ 保
菜ニ勝行爾畠の名 ㊦ さうじみ 萬 正身の意
菜掃後のまし佐 ㊦ さうや 後拾葉 遊の
菜 源 装束 米の名 物依出 ㊦ さうそく

㊦ さうえい 盛造営の
名 ㊦ さうれう 名 相應の
名 早朝の ㊦ さうてう 名 験動の ㊥ さ
ねく 万 佐藍 さまさま 解 ㊦ さくじ
万 渭 さやさやに 約束 ㊦ さまよひ
万 麻 欲比 進退、吟 ㊦ さふしき 名 雑 名
㊦ さゝふる 年 条 名 障の名 ㊦ さゝいべ 和佐々
伊部 止野 崔部 ㊥ ささえ 史 咲映の名 ㊦ さ
さゝひ 今 さえ退の名 今 先拂 ㊦ さゝはふ

そし 万依古播布 幸 さもさふし

小臭出の ㋂ さみだるる 条々

多く

み 万 指進 考ニ墨云ヘリ 松 ㋁ さしあふ 条合の多く ○ さしば

ㅂ さひだる 万依比良流 和依肉奴流 曝 ○ さひだろ 和依比 ㋃ さしそへ 大 条延の多く

奴恵 卿属く 搏 ㋄ さもらひ さもらはん さもらへる 万依毋良比 ㋅ さしば

侍 ㋆ さもらひ さもらふ さもらく さもらく 延依須良比 玲征字程 ㋇ さしだ 表擬

を依須良ヲ 阿留ヲ訓ム

み ㋀ さいづち 条 前須ニ助辞ス ○ さいたづ

武禁ニ草ヲ付ケル又 虎杖ヲ付ケルモ ○ さいだづの 万 幸魂の 松多く ○

さいちやう 条 掌 柳の 青ク ㋈ さばへなす 紀依 倍 魔

如五月蠅 ○ さばひたり 条 梁ニ五月蠅ヒ たりの多ク見

㋉ さにたらふ 万 狭毋頬 考ニほひやのふくめる新ヲ布 ㋊ さへぐさ 依倍乃賀久 通祖

㋋ さへぐみ 和依 ㋌ さぐくせ 万依波波 解ニ述ばせるごとのみ非ズ さハ発語ニテ所向の多ク 世流 述ヲさしこみいふ事古ヘよりあることなり

ふ 万依波波 解ニ述ばせるごとのみ非ズ さハ発語ニテ所向の多ク 世流 述ヲさしこみいふ事古ヘよりあることなり

㋍ さるをこのせ 和依流字か 苔おく 松蘿 ㋎ さわ

おばし 多依和加 波之 騒 ㋏ さかみづき 万依可美 良波

酒満坏の多く 解ニ流酔ヲ ふくいひそく

○ さのほがひ 古酒樂 壽

幸賀の
翁く　(ウ) さうぞめく　衆裝束めくの翁さうぞめくと山田のそほ門こゝ翁くそれのやうなるをいふ一向

万　櫻麻乃　咲ゝ櫻ハ
枕　　枕詞

細石　字ゝ硝を佐ゝ
良石ゝ良　(キ) さゝらをゝ　万佐ゝ良手疑

咲ゝ小さゝ琢さゝら
ゝらゝとゝるゝ　(ミ) さゝかばく　多接を例り
衆文の翁く

(ヒ) さひのゝ乃　万枕
字沙比良　檜隈まそさゝ
含　　発語ゝとゝる　○ さひでのね

六ゝ

(イ) さいくゝしき　漢濯々翁
の翁く　(ハ) さはあらくば　和

七ゝ

(ホ) さねもじみ　和佐夜毛
土里

(サ) さゝらえをゝ　万佐良壮子　(ヤ) さやぐさぶり　和佐夜ぐさ根
振の翁く

二ゝ

(イ) 手い和　(ハ) 手代　万役波隙　(エ)
國く紀伊

考え 万考延 消 ㋕ さぐ 和文々 雑 ㋖

考び 万考受 癖

こ え

㋑ 考はゝ 万仮波 極 ○ 考はゐ 字支波 井 薐

㋒ 考ほひ 紀競を例り 勢ひの略 万 なるべし

㋓ 考かひ 延仮加 比 錆 ○ 考かは 和本かは 波 耳皮

○ 考かゝ 紀柵養を 例り 栞こ淡因の 事を柵の 中に置をいふ ㋔ さた

ふ 字も支ちゐ 残こゝ 外 ○ さたひ 和文ちゐ 外 ○ さたう 多形猫の ㋐ さそひ

比 乾肉こ 腊 ○ 考た

流競を例り 禁こ息流の 事をいふ ○ さそへ

万仮曽 解こ先製こ 信 ㋑ 考げな 和仮なり 犬景 掌

㋒ 考らふ 万霧相 曇るをも いふ ○ 考らふ 字支良 ㋓ 考うば ち弓馬の 事 ㋔ さ

ゐ 嫁 ㋕ 考のふ 万仮乃 敷 昨日 ○

ゐる 古今 来居の 事こ ㋖ 考乃え 甲 木の実の 事こ ㋗ 考やう 漆京の 事こ ○ 考

やう 策 縄の 事こ ㋘ 考たえ 万仮許 延 訴 聞

㋙ 考ちから 古今 精 ㋚ 考ちやう 茎 小幡 の事

(り) 考わぐひ 字も支利久比 杜 (ス) 考めいる 和波奴以也 祇 (ウ) 考うでん 多宮殿の もろく ○ 考う めい盛 礼明の もろく (ヤ) 考やうふ 久ふ驚怖の もろく ○ 考やうぶ 久刑部の もろく (ま) 考ーらひ もろく ーらふ もろく ○ 考らく 采紀ら躁を もろく (ケ) 考えむば 和支毛 多波 胡黎 (エ) 考ゑむば 和支毛 多波 胡黎 もろく

又云

(ヨ) 考よのまはり 迩浄 麻波利 (タ) 考わひお 和字 加祢 鑼 ○ 考わひもろ 久ふ 腊 鳥腊乾肉 もろく (レ)

考そひがり 万競猟を 列り (ヤ) 考やうかり 采行幸の もろく ○ 考やうおん 盛饗應の 太もろく 又云 列り (コ) 考よーをん 万宴を 列り

(モ) 考ももむのふ 万 抑 肝 向

六云

(ツ) 考そひがうり 字も支曽比 加右利 詰 (ネ) 考みのこ ーけ 字公弥乃 加志波 石葦

八云

(ノ) 考ゆうけはろみづ 和木乃字与係乃 奴毛 木穴ろく 羊天河

ゆ乃部

二言

㋡ ゆげ 字ゝ蝶を奈田を とらへとり 湯煮 俗ゆでる ことゝり ㋫ ゆふ 万木綿

之古穀ノ木の皮もて 製たりしと ○ ゆふ 万由布 夕 ㋓ ゆゑ 古

由恵 故 ㋪ ゆひ 和由比 結 ○ ゆひ 牧馬遊牝ゝ 遊牝 ○ ゆひ

ゆゑんゆゑ 万由比 結 ○ ゆひ 業 備を訓り 業田

ゆへるなり 丈 持るよ

人を備て持る絆いふよりいふなる業華物語ゝよめ備前ハゆかし八ゆひなるせしまのゆるえんかくれ八備人をさしていふるよなるへし

三言

八 ゆはず 万弓波受 弭 ㊁ ゆよは 紀踰弐波 齋

庭 ㋡ ゆげの 万弓米 弼 ○ ゆだわ 仏足石 由

豆利 讓 ○ ゆげ身 丈 紀ゝ齋槻 を訓り ㋵ ゆらへ 盛

後 手綱なるといふ 今ゆるえんといふ ㋛ ゆくへ 千 万ゝ往方を よめり ㋘ ゆ

げひ 和由介比 備前 靫負 ㋫ ゆふべ 万由布 夕 ○ ゆ

ふ身 和由不波 下總 結城 ㋯ ゆくを 万 弓雄 ㋜

ゆだち 万弓上を訓り 弓末の意也

た言

㋭ ゆほひの 淵 葉ゝ寛又窈窕を 訓りとえ ㋡ ゆげろふ 字

由ヲ呂布 餝消 ○ ゆげるは 万由ヲ流波 交濃木 ㋑
ゆのおわ 和由乃阿和 硫黄 ㋒ ゆまはも 延由麻波利
齋 ㋓ ゆふづく 和由布ヲ々 太白星 ○ ゆふでえ 支夕映 映はの二云こいろせり ○ ゆふさも 字由布佐利
晡 ○ ゆふかほ 汎夕顔 顔かの二云こおあり ○ ゆふはな 万木綿花を ○ ゆふーて 倉 木綿繦よめり ㋔ ゆさはも 和由佐波利 賞歎 韃 ㋕ ゆ支かひ 万社反 を汎りゆきかふもいふなり ㋖ ゆみいる 和由ヲ以留 射 ○ ゆみづる 和由ヲ加留 弦

又云
㋗ ゆかはおみ 紀沐浴又浄沐 湯朏潡の義と なそを汎りゆふこのばら 支木綿鬘の義と今猿楽の鐵女と称す風 ㋘ ゆう曳 久牟奥の義と ㋙ ゆふぐれば 古由布佐礼婆 夕 ○ ゆふげそひ 万夕附日 夕曛 ○ ゆふばらよ 万由布ヲ久敞 夕月夜の義と ○ ゆふてぐら 支木綿幣の義と ○ ゆふだすき 万木綿手次 木綿襷の義と ○ ゆふたたみ 万木綿牒 紵と木綿布を畳むとよめり ○ ゆふげふ 万夕卦占向 葉と今と辻占をいふなり

六云

(ツ) ゆづいはむら 古湯津 紀に立石神社 石村 ゆづ村ともいふ
石ともそゝぐ 万にも

(テ) ゆゑ〳〵し 業敬 和由気比乃 延喜式 敬々敷の
玉ゑ

七云

(ツ) ゆづのは万ぐし 紀湯津 櫛の歯のゑゝこぼつ
ゆづ村のゆづ 仍櫛

(ナ) ゆげひ乃法のさ 和由気比乃 延喜府 衛門府を
更加佐 敬更の伯汚

めの初

二云

(ヌ) ゆづけどり 古今 本綿附鶏の
智ゑ

(ネ) めを 雌雄 和雄を宇土里
雌を末止利ゑ

(ヒ) めひ 字女比
和

嫁、妊

三云

(タ) めだゝ 業忘ゑ馬道ハ堂向
之通ゑゝゑ

感、愛 ○ めづ 万愛ゑを
訓ず

(ツ) めづる 紀梅ゑ
留

万こもんゆ
感ゑの活く

(テ) めづら 支

(ト) めなう 業瑪瑙の
ゑく

(ウ) めうの ゑ

和ゑ簑荷を采かゝゑ今
めゝうとらふはを活く

四云

(ヘ) めはし 字目志
比

盲

(ホ) めはじ 和采波之支
草ゑ

莞爾 (ク) めぐはし

後撰 月文の
巻之

(ノ) めのかぎり 和米乃於カ又米乃カ 紀梅ニ躍志 希見
万 又和於毛

はは 和米阿波 乳母 (ア) めあ
須

又云

(イ) めいたく 又鱭を河ニ
又眴を河ニ瞳を
万志呂久とそ

云云

(ウ) めまぜろく

○ めのなくわらは 紀女孺を
河ニ

八云

○ めくるめくやまひ 和女久流女久
夜万比 眩

みのね

二云

(ヘ) みへ 和天佐 三重
伊セ

(ホ) みを 万天宇 水脈

(ロ) みわ 和天和 神酒 和紀ニ神酒和語云天和
よし美(ミ)龍よりおこる歟ニ

みわ 万 三輪 (ヰ) みゐ 古天奴 稚
太和

(ヨ) みづ 古天乃 水 ○

みづ 紀天天 紀弥圖 瑞

(エ) みえ 古天延 所見

三云

(三) みふへ 紀郷膳を汎す御贄の義と數に二云おせり (中) みをゝ〳〵 紀進食を汎す御食の義と (カ) みこのは 和名加波國と 參河 (ソ) みそぢ 仁足天皇弥蘇知未利 三十 未利ハおそりみ略語なり (ツ) みづえ 万水枝稚枝の義と (テ) みづら 古名髪型と云ふ ○ みづは 紀名波波多神と 岡象 ○ みづち 和名美豆知 和名鰐魚と 蛟 ○ みづし 禁御厨子を 采汎す ○ みづ曳 和名美豆比屈と云ふ ○ みづを 和名美豆乎 馬名と 鵜鞠 ○ みづ曳

万水城 解て筑紫て大堤を築て水を貯をいふ名を見ゆ ○ みの沫そのあわ乃泡なと (ノ) みのは 和名乃波 蓑苔 (オ) みなわ 万水河 和名 (ク) みづ枝 枝と水中の茎と瀧の義と (ヤ) みや 主宮處の義と (ア) みあへ 紀饗を汎す (サ) みをを 後拾撰を汎す竿にいひなせり (キ) みをゝ 字弥々受 (ユ) みをゝ 字水々波 漬、汎 (メ) みゝ 字弥々受 蛛、蚯蚓 (モ) みをひ 僧 (ヒ) 水もれ二云をひと云

㊀ みちかひ 源 河海抄ニ通往ス
なり 紀 源 簡始報 考ニ三方ヨリ源又一説ノ龔路ナリトイヘリ
料 ヨリテナリ
なるべし 万ニも埋ル所ヲ考ニ土ヲ掘ルヲ云ヘルカ如シ
冠詩ヨセ 例ナシトイヘドモ
の意 ㊁ みこの川 和 矢かた波 倣 龔調 ㊂ みげぐ
貴 万 水莖 源ニ筆ヲイテ
又ヨミヲ云ヘリ
○ みげや 万 矢 ニ 椎々敷山
の意
矢ニかた波 神社ニヨル 瑞雛 ○ みげこの貴 和 矢ニかた波 鳧雁足指同在ニ 蹼
矢ニ 加 源 水狼 ○ みげうこ 和 矢ニ 大沈ニ 湖 ○ みげこの称 和
○ みげ〳〵 貴 盛 義 鞆ニ
ほし

乃ヘ士 みの乃への意ニ ○ みげ乃や 愛 みの乃への意ニ
㊉ みな貴は 万 矢 ニ 彼波 水除 ○ みれげる 和 矢 東
和 多 年魚背腸ノ みのるる 和 矢 乃 和 多 三瞻
㊄ みやひを 風流士ヲ河ヲ ○ みやげ大 史 家造乃意ニ
○ みやうぶ 源 令婢ヲ河ヲ 叙爵ノ女ヲ内舎人ニシテ又ハ伍位ノ妻ヲ外命婦トスルヲ
㊆ みあはひ 紀 合 交又婚ヲ河ヲ
多合ノ意ニ ㊇ みくしひ 宝 耳 志 比 聲 ○ みげる 和 矢ニ 鳥ニ 朱 兎
㊈ みじこの貴 万 矢 角 可 役 短 ○ みじろく
源 多退ニリテノ約ロニ

又云

(チ) みちのおく 和名抄乃加久國ニ 陸奥 (ヰ) みそ
ぢくさ 万葉字ハ久志 水脈載ク 澪標 (ヒノ助詞) (ワ) みわたり
とげ 史水門小菅ノ訓ニ (カ) みこのはみづ 古今歌ノ訓ニ
(ヨ) みそなはし 古今賢ノ訓ニ (タ) みづく 古今見給ノ訓ニ
〳〵 古事記ニハ 椎々敷斯ノ訓ニ 布流比 瀧水 (レ) みづがき
和名抄加利 準縄 (ツ) みづそそむ 後撰老人ヲ瑞歯ニ
トル歌多シ (ネ) みづ 字ハ水不々支 園菜ニ 菱 (ナ) みなれざを 史

水馴棹ノ訓ニ (ラ) みなのりそ 万葉ハ乃利ニ 和名多ニ
(ム) みなしたふ 紀水下行ノ訓ニ (ウ) みくまりなす 史菰草
又字ニ 紀漸雛曽芳ニ水底ヲ 松屋蹴ニ (ノ) みやびをへ 万葉ニ大家ト
書テ加信ト訓ス 紀苗裔ヲ汙ノ御名ノ訓ニ (オ) みやつこ 万葉ニ
造ト書ス (ク) みやばしら 古今雅ナルヲ云ヒ仕ノ訓ニ (ヤ) みやこ
(マ) みけむかふ 万葉ニ御食向ト書ス (ケ) みあかし 和名夜加
古本ニ接骨木ノ訓ニ (ハ) みやうがん 盛ノ神ノ訓ニ (フ) みもろびく 万葉三
輪ノ枕詞ニ 紀苗裔ヲ汙ノ御名ノ訓ニ (エ) みふね 万葉ニ御船ト書ス

着三諸ハ假字もて御室
のあを神社をいふ乃
薦振薦もて葉に玉薦の義もて事を
ふなもてしらふはあをさもて考へ得べし

六云

(ト) みとあてはし 古事記乃阿多
波之 (チ) みち
ゆ者みゐ 万遠去畏 氷縢なふ
のあを (カ) みかどまもり
紀朝参を
河乃 (タ) みたりかはし 源氏漫又澄を河乃
いろのなてなふそひと (ツ) みゐとる 和名抄紀徒罪を所遣罪
乃訓とる 古事記止留
○ みゐのみたみ紅 河乃 ○ みゐは
ろくふ 万水穂國 瑞穂國を
古事記乃称 (ラ) みしろいね 和名抄

(ト) みとのまぐはひ 古事記乃阿波比 奥波比

七云

たらちを乃う乃 和名抄乃乳母利 鎮粉
みゐ乃ゑあらこの 和名抄乃垢離可加須 貢粉
ゐのねの 古事記乃阿良可 瑞殿 ○ み
八云 ○ みゐこ 和名抄乃加須 貢粉
九云 ○ みぐれ 和名抄乃介布利 鎮粉
十云 ○ みゐ乃うえ 古事記乃阿良加 石窟醸
十一云 ○ みゐ乃うえ 万水江之浦
島児

十ヒ云 ○ みおろし 加之波天乃 辰加佐 乎膳監

志乃弁

二云

(ホ) しほ 方志保 鹽 ○ しほ 万思保 うしほる海名 潮、

汝 (ヘ) しち 和之弁 車名 榻 (ワ) しわ 和之和 皺

(ヨ) じよ 保自餘の 名 万ヶ條文を洲るゝ志門 下枝なるゝ志門の 名又賤名とも洲り 須たてふゝ志門の約ゆゑ (ヲ) しげ 支 枝なゝ 枝ゝ (エ) しゞ 万四 時

繁 (ヒ) しひ 方志比 木名 椎 ○ しひ 万志斐 強

○ じひ 栄 慈悲の 名

三云

(ロ) しろを 和之尼乎 魚名 鮪 (ハ) しばふ 支芝生の 名

○ しはう 今俗を洲りそれハ 之波止 之河 磯伯 ○ しはす 十二月 年極の略 師走の下

はう 方四方の 名 (ホ) しほる 伊志字本と塩流と見染と塩入の名という塩流の略流 なゝんう條ゝ 哭を略名 ○ しほ 万志保 解ゝ今志ほくゝ ふをほしゝ見 ○ えほで 和之保天 馬名 鞍 ○ しほち 支枝保特 志字 末考

㊐ 志利へ 紀志理弊 波尻方の 多く ○ しりぬち 尻 ㊥ しをり 枝 苔芝折礼 著 ○ しをに 和能之伊 之手迹 紫 荒 ㊦ しげざ 艾 萌葉の 多く ㊧ しがふ 栞と顕昭云へる 草をからうた米ぬ ㊨ しをひ 志保比 多く ○ しをれ 和之乎礼 垂髪なと 助枝 ○ しをぢ 比 幕 ○ しをぢ 和之乎又毛乃半乃古 前支 ㊩ しげえ 古志反 延 ○ しげく 万四頭久 滴 ㊪ しげめ 乃斯反 ○ しげく 俊 ○ しげな 紀雨葬を河乃字と點々を志反ふ志ゝ反ふ

之頭久 沉 ○ しげれ 木と積る雪の こと繁前の略体なり ○ しげむ 盛 志乃牟 ○ しげき 和之加支 波跡 志筑 ㊧ しなえ 万之奈 栞と之ハ発汎要 萎と反 ○ しなへ 志奈倍 しなふ 竟宴哥之奈反 許垂 ㊪ しなれ 栞也 しなふ ㊫ しろを 和之宇乎 夫之文へ 舅 ㊬ しみれ 栞也 ○ しろを 多く 注と琵琶の 鬼弦 ㊭ しぐ 名所と ㊮ しおひ 字志己反 潜 ㊯ しぎは 和志伎波 播方 宍粟 ㊰ しきゐ 紀席を

訓り敷居の義之 ㋯ しみづ 和之同 清水 ㋛ しづ

み 和之自弥 小貝之 蜆 ○ しぢむ いふなり しぢまるて ○ しゞ

ま 涼 棲遑ふすしとも 湖月抄云 ㋓ しゑや 万四恵也 縦恵夜思の略語也と

いふなり ㋪ しひろ 續之非 天 強 ○ しひね 和之 比

祢 瘤

比云

㋺ しろたへ 古斯漏 多閉 白布 白栲 白妙 訓同 ㋩ しはぶれ

万之波 丈礼 [redacted] ○ しはぶき 字之波 不支 欬嗽

㋭ しほたれ 倭 哭を塩 垂と見え ○ しほぢむ 深 焼深くて やけるをいふ

○ しほあひ 新古 潮間の 義之 ○ しほざり 伊勢丸 天野氏 信景作 云海民物をと

焼て居辺にて蒐集て堆をなし畦をなし海の来りて砂畦を浸す 所にすめる 砂畦を積

沙月と称して後沙を積て山やうを作り日に曬れ形𠆢を残志㴞之里といふ

事に富士乃形に

似たりといふ ○ しほさゐ 万 潮佐 為 騒之にはの 狗ゐ

㋬ したく 徒 多に寃凌を訓り又虔武ハ弊しよめり 徑つくしの義に

さくたくハ土佐日記にもふけもなく船ハしぞきにし

そゞきつゝる凌の義にて挾衣抽衲ての物の沙をせゝりなど或ハせゝけると

いひてもおなしきへの縮せるをいへ諸ハたのものん

㋠ しちやう 棠 仕丁の さを ㋷ しわへで 紀 強手を 訓り

㋵ しよらう 保 許 労の 言之 ㋟ したのひ しきのふ しらはん

しらくへ 續 頃 比 ㋷ 從 ○ したばへ 万之多 婆倍 妻向をいふなり

るゝも

○ しらう河 後 擺 襪 和に襪を之多之頭とよめるなか よくも寄傍とはいふなり

○ しゝばえ 拾
倭文機の 巻之

○ しげし 万 倭文 ㊀ しげゝ 万 倭文 幡
巻之 しげゝりおり 紀 倭文織之しげりとらす
北畠親房

○ しげくら 万之頸巻師
しげくらし 静 字之點之又悟或ハ
滿なとゝもかゝるしかり

哥靜歌の 巻之 ○ しげゝた 古志
しげけ 万 静 管 下巻の 巻之 ○ 志
しげゝさ 万 倭文 解之文有布といふるハ字えかゝし
幣 巻之倭文(シツリ)を幣になるといふるハのし ○ しげ

㋑ しらばち 和之良
波知 巻之 亞 ○ し
らゆふ 万 白木綿 ○ 志らうし 和師 巻之 紙光鵐
西之字のふいろのほのまゝ
なりまさるもいふ之

㋒ しむら 添親王の 巻之

㋓ 志う 盛 蹴鞠の 巻之 ○ しうえん 和之字
加朱
夫の妻之 姑 ○ 志うとめ 多 秀逸の 巻之 ○ 志うとゝ
多 秋その 巻之 ㋺ 志乃げの 和之乃 加 篠束 ㋩ 志や
うし 菜 障子の 巻之 ○ 志やうぶ 多 菖蒲の 巻之 ○ 志や
うび 菜之半の 巻之 ○ 志やうえん 菜 浄衣の 巻之 ㋥ し
けいめ 和之介 以止 絓 絲 ㋭ 志ぶのふ 拾 志ふくを延うり
繁吹の 巻之
㋦ しまい 和之仮 以也 馬樋 ○ 志またへ 万之仮 枕多倍
敷栲 ㋧ 志めゆふ 万 標結 ㋨ 志ぶかむ 清縄
今ちぐむとうり
しちをつり ○ 志ぶまる 字志自万 幡 ○
留

をぐまひ 万 棲遑 進退を云ふ
くべ 字志自 久戸 櫃 ○ をぐ
膝 ㊄ しひなせ 和之比奈世 有皮而無骨之 靴

ㄙ云

㊅ をばぶのひ 万之波支 歯噛を云ふ 俗に 歯映しの字を書とる
加比 いるゝこと ○ をばゆし
淋病 ㊆ をぬぶらひ 万 忍経 ものふるを 等比 延いふ ㊂ し
ようでん 保 昇殿の 義 ㊇ しげたるもの 万 倭文手纏
○ をぐろ 大 弦心の 義 ㊈ をなゝゆふ 古 志那跨 枕 由布

ものひたゆむ
の義とも云 ㊂ をゝちひゝく 万 白香 考に白髪着 枕 付
生年の 義 ○ をやう 支 重千曳 の義
めゆひ 支 鬘用結の 義 ㊃ をゝしろ 紀 松 矢盧 考に藻の俗字と 敷譲ことゝいふ
ほ 和之々比之保 肉脚 醢 ㊄ をもゝゆふ 倉 紮て落ざる 本結の 義とぞ
ㄙ云
㊇ をほのやほへ 紀潮之八百重 ㊉ をりくめなのけ 古

尻久米 注連縄の 古事 ㊂ 志ゞを乃よゝも 万之津平乃 下男部 ○ 志ゞ

われゆ支 支 禁ゝ靜下重の事 水瀦ゝの事 ㊃ 志やう〳〵

栄清浄の ㊄ 志で乃たゝさ 伊 袖中抄ゝ 籠の田長 ゝゝゝう文田ゝゝ

田葉ゝゝゝ ㊅ 志ゞ志ゝゝかゞ 源 令編凝の 事なゝ

つゝをゝく

七云

㊆ 志ろゝゝを乃ゆゝ 支 白撓乃木綿 そゝゝ

ゝゝゝの略伝ゝ

ほゞ〳〵乃ゝゝ 紀 塩土乃老翁 ㊇ 志

を訓ゝ

まひ 和之里以支流 夜万比 脱症 ㊈ 志ゞのゝゝごまの事 万

倭文乃 梁ゝ 倭文布を織ん料の巻ゝ

等環 よゝて称ゝもあゝぬゝ

ぬ義 支 假 篠の小障 吹の略伝ゝ 木草此風ゝ 籠ゝ

梁塵 葛掛ゝ 秋風のゝゝ

ゝゝ ○ しろゝゝはゝの 和之乃字ゝ

波ゝ乃 尾書ゝ 尾

㊉ ぎやゝ称いでん ゝゝ常寧殿

ゝん ゝ上東門 禁中殿名ゝ ○ ぎやうと

禁内ゝ

㊋ 志ろくびの歩 和之ゝ乃

久比 乃木 藜蘆

志乃部

二云

餌 和ゝ次食誘鳥魚ゝ 衛會 行ゝ

ゝ假ゝ

(ト) えゝさく 續古 餌袋の
餌をえさ

(又) えめ 古恵奴 飢 (リ) えそ 和恵曽 能曽 銭 藤 (ラ)

えぐ 万恵具 顕昭説に多八ばてまた嘔てあてる芽と似てる草と
今東國まてえぐ八ゑぐ
えぐ 万葉芳谷記に東國まて八与基よらひを江越方なとにもいふ
其私為といふ土佐國まてハ与基よらひを江越方なとにもいふ
多くて蘭と似て赤くて円くて
多くて蘭と似て赤くて円くて 又本綱包子ともそともそ根ハ白くふき羊ありて味かし
里人ゑぐみを煮てくらふ甚よし
夫木集 そゝみ川う我江こそのゑぐ
たゝえて 返し ちゝろさし添ふ
あふねせよて左の家も八顕昭説にいふ如し 又成形説に八ゑぐ弁
よらのちて左今ゑぐ芳とあるハ同物ゑぐの偽の約めこそある
おれの流いと精しいされいさゝ左のへる

(ミ) えみ 古恵美 笑 ○ えみ 字恵弥 黄精

(ヒ) えぐし 後撰 衛士まて禁中宿
まの官人をいふ
るゝ 古恵比 酔

三云

(ニ) えなし 和恵不須 木こ 槻 (ホ) えぼし 平家 烏帽子

葉こえほしとゝるハおゝこし烏ハ左出こ
なの假字こ用いたれゐり今の
屠児 枕こ或説父の恵をこ老ハ姑恵乃利の約らしらを考ふ
今芳物説を餌えのとの殘し馬牛の肉とえゝくの

(ウ) えぢく 多嘔を訓よ
実の約こしらす (十) えなぐ 字恵奈久

(ラ) えらひ 万恵良比 解こ浪のゆりもむ
をらふらをり

お充息
呻吟こ 喙 (ラ) えらひ 万恵良比 解こ浪のゆりもむ
をらふらをり

○ えらす 績恵良伎 咲 樂 (ラ) えぐし 和
笑こ

恵久之味ゝ 醂 ○ ゑぐ 和恵久保 人笑時頬見巻ゝ 靨 ○ ゑぐぶ 茎ゝ鏥轉の象ゝ見 ○ ゑぐぼ

㊀ ゑまひ 万恵麻比 栗皮折肆而發ゝ 鍔發

ヒ云

㊁ ゑもいし 紀碍を例す雌石の象ゝ ㊂ ゑもはせ 深菜 綠鬪 ㊃ ゑゝさ 和恵久利 阿波 殖栗 ㊄ ゑゝさげね 多白萄を例す

恵良久佐 女蔵雞 ㊅ ゑゝしげ 和恵女利 ㊆ ゑめり 和恵女利

ひの部

二云

㊀ びは 和微波 樂器 琵琶 ○ びは 菜字ゝ比波乃木

杷 ㊁ ひぢ 和比知 臂 ○ ひぢ 紀堅土を于毘尼 土

○ ひぢ 万涅積を比豆美ひづゝる 濕 ㊂ ひを 字比宇魚ゝ

鰾、氷魚 ㊃ ひげ 和比介 年魚 氷頸 ㊄ ひえ 拾ひゆる ひえ 和比衣 稈 ○ ひえ 古

日枝山の名ゝ 比叡 ㊅ ひえ 古被恵 今へぐゝるハひえゝその約語そひえの約ゝ

三云

① ひいげ 名 秀 禁て穂出るの名ことに見 ② ひろふ ひろえん ひろひ ひろへ 續後拾布 ③ ひとく 和に乙男 役奴ことに見 單

○ ひとへ 一重

④ ひこへ 平家 裾 禁て曳延の名 ⑤ ひたひ 和に也 額 ○ ひたを 紀に畏阨鳥 領也 ○ ひたひ 和に太乙客飾名ことに見 額髮 ⑥ ひばら 業 紀に磐を訓す ○ ひ

ひじ 和に肱之獣ことに見 羊 ○ ひげ兎 和に兎未書足ことに見 蹄 ⑦ ひらを 史 平従ことて世袁朱 ○ ひたち 和に直之おろの約ひ通ひ稲ことに見 穂 ⑧ ひうご 和に宇賀國ことに見 日向 紀に辟武伽ことに見後世に字賀ことに音便ことに見

ノ ひのえ 丙 火の兄の義ことに見 ○ ひおえ 字に古延木細枝ことに見 朽 ㋑ ひこ 和に古男之 ㋒ ひさご 和に古乎 失聲 ㋓ ひじり 万日知 聖 ○ ひしほ 和に之保 醤

㋔ ひこ 和に比々古 曽孫 ○ ひこな 清 雛 柿ことに鳥の

㋕ ひく 和に比々流 蛙 ㋖ ひげ 紀に渭宮ことに見 ○ ひじる 業ことに居

ⓣ ひとしほ 一入 枡ニ古ニハ塩折酒又ハ塩折紐中略 此ハ塩折ハ也志保伊利乃伊を宇ニ通

しかるを今一入とかくは誤なりといへるは非なり塩折ハ也志保宇利と訓へきを折てふもの六ハ略なりと云ふこれるよし万ニ呉藍之八塩乃衣と折てふならはくて染むるものゝ数あるへし又也志保伊利の伊を宇ニ通しているとかるを訓のこと伊宇をふなもゝハ中古のみなれとそしいふなり入の字のをしほとよむは旋の字を替ちく訓なせるなり ○ ひとへ 単 史 偏を訓り

一重の の義 ⓒ ひぢりこ 和比知利古 土和水之 泥 ○ ひぢ

ま義 和比知 万佐 釧 ○ ひぢかさ 和比知加多 きに 土形

ⓣ ひきむし 和比牟之 虫之 蟒 ⓦ ひわやこの 菜 蝸人

をきもち人を訓りきと伺し やの八韓をてもちひやのなへのほし ⓣ ひたさを 万直佐 麻 虫小

ゑの 義く ⓝ ひねびみ 艸 和比祢須 美 火氣 ⓞ ひ

ひをどし 保 緋威を訓りおどしハ 年 ひおどろかしの略語とそす ⓨ びやうぶ 屏

風の ○ ひやうゑ 兵衛の 義之 ⓒ ひこばえ 義之

和比古波衣 斬而復生之 蘖 ⓔ ひえどり 和比衣土里 鵯

ⓢ ひさむし 史 瓶淋しの略語の ⓚ ひめびき 和比佐

於比 小帯之 衿帯 ○ ひめやう 太負史寫 適菜ニ比奥と云ハ非之非奥と云しと

ゑしたり ⓗ ひじきも 伊和比須支毛 鹿尾菜 ○ ひ

ぢやう 菜 非常の まとし ⓗ ひゝらぐ 字比々良久 疼 注ニ痺之

○ ひゝらぎ 古比々羅木 和内 杠谷樹

又云

(ト) ひとたまひ 和比止閇 波沼 單衣 (チ) ひぢかげら 字比地加 辰良 鵰
(ハ) ひるがへる 久 翻 訓カ 云る八日中ニ 盛んなれハ返るよりいへるなるへし (ヤ) ひ
をりろひ 古今 伊 標 字本ニ射禮ニ見又引折ノ日の事とも 或ハ 標ハ 榊 ともいふれと標をひろふにもとる
(タ) ひたひこのみ 名 騎射ノ訓カ額髮 のことなるへし (ツ) ひさぐく 万引 引連 良比 の事
さ 和比辰之 久佐 白鮮 (コ) ひさげらひ 万引 引連 良比 の事
く (サ) ひざろばき 袋 跪 訓カ 膝曲突の 略語なるへし ○ ひ
さがげら 名 狂 訓カ (キ) ひさあてせ 袋 梨子 檀紙 をいふとも
え ○ ひさしろふ 今 引掛 を返 いふ訓カ (メ) ひめそご

名 ふえいふものの舌の根をそり立ル状ハ活飯を用ふる故 ひえのようなるものともそれ
六云
(ホ) ひはゝいを 和比保之乃 以字 炒熬 (ル) ひふむや
まひ 和比留曳夜来比 不能行く 痿痺 (カ) ひかげかげら
和比加介加多良 祭具ニ 蘿蔓 (ヨ) ひざのかはら 和比佐乃加 波良
膝骨 (レ) ひしお 和比師太以 和之 鯷魚
八云
(ソ) ひざのみのあそ 和比佐加天乃阿波太 膝之骨ニ 髕 (キ)
ひさのもゝひぎ 和比支乃比太 比久佐 細辛

を乃加

二云

(チ) もぢ 和毛比 潜く

(リ) 鍬 (エ) もえ 後撰 和に燼を毛比 燃 (ル) もえ 績を毛比 萠木草 いつ

○ もえ 後撰 和に燼を毛比 燃 (ル) もえ 績を毛比 萠木草 いつ

(ヒ) もひ 和毛比 尾器く 盆 ○ もひ 俗に毛比 方言なるべし 桝と

和毛比 主水司を毛比乃里乃官かに作るもの也ひと同音なるを盥器をもていふ〳〵いつるハいと〳〵紀に冷水をさむきみもひと訓るハ又もひの約みて

あをそふ〳〵いふもの〳〵ねんごろしかれハ器にものつねんごろしてを比乃里乃官かたもあるなりてこゝろ

梅の〳〵等を入る器を若し匂ひうつりて損とし

うし器に作れるおハ盥ハあるの物敷紙なり

(ス) もび

三云

(ホ) もほ古 字毛保已 草く 蓁草 (ト) もとる 基 正本居の 發成つしとゝえ 桝ほし

(ヘ) もひ 和毛比 餧 ○ もぢり 俗に毛比 方言なるべし

今こもぢりといふ字ハ和名抄に

毛知支利とゝれハ訛なるべし

(チ) もち 用をもちゆるもの

(リ) もたえ 衾 冏を河り採後の氣ゐ もゆるもの 發冏後とるもの

(ヌ) もづく 和毛豆久 海菜く 水雲 ○ もづめ 和

河内字ハ潮調を毛知遊とゝえ桝集正いつれもをもるもちゐと

あれと非こ報をむくいむくゆと活にゆし八饗とをもふるとゝハ

何れのをよりしや (カ) もから 清惰顔のを俗く 黨にいへり

和毛太比 尾器く 甕罃 ○ (ワ) もげく 和毛豆久 海菜く 水雲 ○ もげめ 和

毛尼女
山城 物集 ㋑ もくげ 文藻屑
いつ
僧合もちり集るもくし
並へ合るもえまるむやひともいふ ㋒ もらふもらふもらへる 字ミ餬を良比波无ト見
ミ美柔の萌
おもえもえふ ㋓ もしほ 後拾 万ミ藻塩ト見又藻塩草ともふ
㋔ もみぢ 万毛見和 黄葉ヽ紅葉
おもぢ

ヰ 比云

㋕ もゝしゆひ 和毛乃由比 鬱 ○ もとほし 古毋宅本斯もとほすともいへり
廻 ○ もとほり 和毛度保利 鷹鳥ノ 旋子 ○ もとをり
伊本着の
義ト ○ もとろね 和毛乃呂祢 備前 物理 ㋖ も

ちぢのもり 古今 物ノ乳綿ノ如ク掛ル滝ノ糸ノ乱ルヽ事ノ千ノ数ヲ思ヒヤルヘシ
掛ルヽ事ノもちり乱れたるをいふ ㋗ もよほし 俗ニ催ヲ訓ス物ノ来ル
ほし 催ノ義 もやはし ㋘ もむろふ 和毛牟乃ミ
陸奥 桃生 ㋙ もゝのいみ 紀齋ヲ訓ス物忌ノ義ト ㋚ もゝ
まふ 古委帳ヲ訓ス ○ もゝろを 万如己男 葉ニハ百ノ字ヲ用ヒ
発汗ノ物ヲ服シテモ衣ヲ重ネ又自然又ハ人ヲシテ
求又自又ハ人ヲシテ ㋛ もゝえぐひ 和毛延久比 燼
㋜ もみげる 古今 揉ノ義モ物ヲ用ヒテ体ヲクヽルナリ

五云

㋝ もろかげら 後撰 ※ノ月両ノ草乃鬘ヽ
ろ葉草ハ※ノ髪ヲヒクナリ
㋞ もぐかはし 支 梢ヲ訓ス戻カハシテ
綜ヘイルヲイフ

㋒ もちひろき 文字 末巻 ㋓ もめけがは 字毛奴 分かは波 蛇 ㋔ もたまへる 采持給の略注 ㋕ ものぐるひ 和毛乃久流比 癲狂 ○ もろふ 古毛々呂布 枕多布 百傳 ○ もゝへなす 万松 百重成 枕 成ハ如し ○ もゝかづら 清紀 暮龍 安播

六云

○ もみぢがしは 山槐記 用紅染膳

七云

○ もびろやつこえ 琴ニ顕昭注ニ多月須ゝ鵜丸清ノ小鳥考ハ誤なるべし木の枝なるべきをもゝられをいふさゝえ

八云

○ もひともろこのさ 和毛比乃利乃 受加佐 生水司 ○ もろもろこれたふさぎ 和毛乃之太乃 太布佐波 松

せ 乃初

二云

㋐ せふ 十輔の訓 駄之 字世比 鵐

三云

㋑ せひ 和世比 鯖 ○ せひ

(ハ) せはし　正こ約をせそ〳〵と見そはしくけ〳〵　(十) せちえ公卿令のまき

(カ) せかへ　万葉歌解こ續日本後紀こ堰加倍留夫とゝほしくこゝ

(ワ) せげこの和世加賀俗世夫称　脊梁　(ウ) せうやく伊呉人のまき

〇 せうふ　著小児のまき　〇 せうふ　多蕉支のまき

(オ) せおふ　多脊負をいふ　(ク) せそげ　多世久宝背痛こ　降背

仁云

(タ) せこまり　廉富記數多折違・鳥帽子をかぶるこゝろ　(ウ) せうそ

古蹟消息の仮まき　〇 せうそう　古今遠遠の大まき　〇 せうそう　茶焼亡の茶まき

(ヒ) せちやう　源湖月抄軟障　細流こ衝立の障ふやう

のそのこたくこせまゝ
とゝまむこしとゝゝ

多云

(ウ) せうもやう　茶少将の仮まき　〇 せうのふえ　和世字乃布衣

簫

六云

〇 せのひろみづ　支婁園の水の

仁乃部

二云

(八)すは太 発汗之甚者の 〇すは和須波 信濃 諏訪
将孔子也

方(千)すぢ和須知 節(ワ)すふすぼん すへ字 すへる

須不 吸(ヰ)すゑ古須恵 末 〇すゑ万須恵 末

居 〇すゑ和須恵 假髪(ス)すぐ古須受

於 〇すぐ續日鏡を 錫和之呂奈 万利 〇すぐま

万ゝ水鴛初しあり今本
鴛を鷰ゝおやすれり

三云

(八)〇すはう平原素袍之 太又素襖之
をハ誤あらの 假字也

〇すそう 菜蕨芳のもの 漆条いふり 〇すは

之 續古楚を訓り素生の者之正と
すは八細長き物之称と見へたり 〇すはう和 國之

須波 字 周防(ホ)すほふ菜條往の事之 すかふま 添

生ひのふかくゝもの 生次を延つゝ 〇すかふ和須加不 河内 菅生(タ)す

たへ紀須多 杯 葉戸(ソ)すかのほ字須奈保 貲直

(ラ)すくひすくそんすくへるゝ仏足石歌 救 〇すくひ須久比

ふ結工ゝ字須久 布 滝 〇すくふ和須久 布 巣 〇すくふ和須久 布

ぐい深ゝもしを者俊之 いしをへるゝ

須ま 住結ゝ 〇すまひますまん ますまふ方 (ン)すまひ和須末 比 相撲 〇す

まふ猿楽古ゝ遊蘭を訓す 俗の廻ゝ

(ヨ)すゑゑ支 奏聲 の誤ゝ

㊐ すぎふ 史 杉なり 久く

○ すゐろ 添 古に伊須々波と云えいふ発語すゐろまの略語 遊仙窟を漫を河内本不完又坐をも河内

すゑめ 和須々 来 雀 ○ すゑ 巣 硯を河内本の略語

○ すゑな 格苓物 菁を河内本小菁の称れるの

鱸 ○ すゑの 和須々 伊勢物 乾鹿

ヒ云

㊀ すいの 史 透 籬のいさきをくハをも俊そう 須波 夜利 魚條 本朝式に楚割 とゝえるみ通し 楚こすれは踈 くいふり

㊁ すまなし 万須受 涼

㊂ すなはち 体 万に登時 又則を河 清河内

㊃ すさまじ 狭荒涼を

㊄ すぎ

㊅ すはやま 和

㊆ すゑ 和須々 来 硯を河内本の略語

○ すゑな 格苓物 菁を河内本小菁の称れるの

○ すゑの 和須々 伊勢物 乾鹿

はひ 多 魚を河内本そひの梓くそひはし 業をなりそひとそ日

㊂ すみなし 和須受 東波 繩墨 ㊄ すゑやく 大俳優の事をそ

乃 陶 ○ すゑなり 焼ま生の 称え ㊅ すゑひ 万

須々 歌を延 居比いふり ○ すゑひろ 和須々之宅 醫 ○ すゑ

みな 字須々 弥東 莧 ○ すゑ 史 驛 乾かる 船をふるえ

ネ云

㊀ すまひぐさ 字須万比 久佐 和須比可 支良 忽冬 ㊆ すゑみだ 和須々受 多加 旋復花 ㊇ すひのげら すゐろぐも 崔鵡

㊄ すゑたむけな 源万ニ未摘香 紅彩ヲソヘタルヲ ㊅ すゝし考ヘ

ひ 万酒師 解ニ進贄ト いふより

七云

○ すそれうちの 万須蘇乃宇 和名抄 裳打蔓 ノ事ニ

八云

○ すないそのまうし 和須奈伊毛乃 万宇之 竹納言

手朱杖下沈

皇國ニ學以言語為主文字
為奴主君夫示奴婢残固矣然モ語
必待文字行哉如
雖奉兵六可
一者主管者使者汲炊ク夫ヲ
投刀拿捺奴ヲ難於ルヲ卒ス執
其役ヲ供ニ主家ヲ事ヲ汚ス務乱
為職役ヲ均慮使ヲ勞ヲ

言之幸不得辨也予之於古語
亦然於越相訛況兎未誤伊爲伊
飛訛翬乱及洁渭延約周言亦當
是其言不通之字亦時矣以圖
字古流光研覃假石角羔
門倚石遣言採石兎言林
字多有其古形程小雅無遺漏訛誤
未洁古田長恵之博證而精
訓史式今至中世相沿

字紙及情士訓点学不改蒙尊
究習勤石一古石曰手采杖手通
詞也學古限文執此跛使之乃
能文作字洁石趨其職手智深
之意外
古何ふ可也此杖謂之文中瑞矛
嘉永乙酉春王正月

錢研堂人室藏

富士通舎藏版

文政二己酉年發行

製本所　江戸　和泉屋吉兵衛
　　津　　本屋伝蔵

書肆

京　山城屋佐兵衛
同　山城屋佐助
江戸　須原屋伊八
同　和泉屋吉兵衛
大阪　河内屋茂兵衛
同　藤屋弥三郎
同　河内屋茂兵衛
名古屋（ナゴヤ）　井筒屋文助
伊勢津（イセツ）　雲林堂伊十郎
同　本屋佐兵衛